

令和6年8月30日

自由民主党 絆

代表 増田 一喜 様

八代市議会自由民主党 絆
管外行政視察復命書

視 察 期 日 : R6.7.10 (水) ~ R6.7.12 (金)

視 察 先 : 【東京都】 武蔵野の森総合スポーツプラザ
荒川区
農林水産省

参 加 者 : 議 員 村川 清則
議 員 橋本 貴喜



視察日：令和 6 年 7 月 10 日（水）

◆視察先：武蔵野の森総合スポーツプラザ

武蔵野の森総合スポーツプラザについて

元々旧日本軍の施設があった場所で、戦後 GHQ に接収されその後米軍基地として利用、返還後平成 21 年に「武蔵の森総合スポーツ施設基本構想」を発表、平成 25 年 12 月に工事着工し平成 29 年 3 月に竣工した施設で、同年 11 月に「東京スタジアムグループ」による指定管理を開始し開業、隣接する 5 万人規模の「味の素スタジアム」と合わせて多摩地域のスポーツ振興・まちづくりに貢献している。

新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年延期の上、無観客で開催された東京 2020 オリンピックの開・閉会式、バドミントン・近代 5 種（フェンシング）競技、東京パラリンピックの開・閉会式、車いすバスケット競技の会場として使用されている施設であり、まさに我が国の最新技術を随所に活用し、利用者にとって使い勝手の良い施設となっている。

都・市民の反応は開館当初より好評のようである。施設利用促進のため年 4 回の広報活動を行っているが、コロナ後メインアリーナを含む利用者数は右肩上がりに増加し令和 5 年度は 60 万人に達している。またトレーニングルームや屋内プールなどの個人使用も 17 万 2 千人と増加中である。収入は令和 5 年度が約 9 億 6 百万円で内約 2 億 6 千 9 百万円が都からの指定管理料である。ちなみに利用料収入は約 5 億 5 千 8 百万円である。年齢層であるが午前は高齢者が多く、午後は子供が増え夕方以降はサラリーマンが主体になるようである。

交通網が発達している地域であり地下駐車場は一般用 134 台、関係者用 43 台と施設の規模にしては少ない。本市も新八代駅周辺にアリーナを含む文化コンベンションセンター建設を計画しているが、十分な駐車場の確保より DX を駆使した公共交通という視点での考察が今後必要になってくるのかもしれない。いずれにせよ具体的なイメージづくりのためにも有意義な視察であった。

◆視察日：令和6年7月12日（金）

◆視察先：東京都文京区

こども宅食プロジェクトについて

文京区は講談社など多数の出版社、印刷・製本企業、また総合病院などの医療機関、医療機器製販業他多数の企業本社、さらには東京大学など国公立4・私立15の大学を抱える地域であり、高齢者の増加のほかに「0歳～10代」「20代後半～40代」の増加、つまり「子育て世帯」の増加が顕著である。

年収2千万円以上が60%と裕福な地域であるが、児童扶養手当や就学援助世帯、生活保護受給世帯は531世帯で、区的全児童数3万5千人のうち800人が対象となっている。中には家賃20万円のマンションに住みながらもぎりぎりの生活をしている家庭もあるそうであるが「子供の教育のために何としても文京区に住みたい。」と考える家庭が多いそうである。特にひとり親家庭だと2人に1人が相対的貧困であるとの統計がある。

そこで経済状況が食生活に影響するリスクがある家庭の子どもに対し、企業等から提供いただいた食品等を配送する事業であり、それをきっかけに子供とその家庭に必要な支援につなげ、地域や社会からの孤立を防いでいこうとするものである。ふるさと納税が源資であり返礼品は「子どもの笑顔」ということで、まったく設定していない。実績として令和5年度でクレジット・納付書合わせて8千8百万円であった。基本的に2ヶ月に1回米2キログラムを対象世帯に配送、一般会計よりクオカードや図書カードを配布している。また企業の協賛により抽選による和太鼓グループや野球チケット、クラシックコンサートやバレエ鑑賞など子供がプロのプレーや演奏を鑑賞する機会を提供していて、受給者からは事業全体について感謝の声が数多く寄せられているそうである。

文京区子ども応援臨時支援金のLINE申請及び区独自給付金のLINEでの申請についての概要

これまでは給付金の申請は郵送による申請または窓口提出のみであったが、区民にとっては申請書類記入や添付書類準備、ポスト投函などいろいろと手間がかかっていた。また児童扶養手当受給世帯などはそのことをひた隠しにされるのでほぼ100%役所には足を運ばれないという現実もあった。また役所では書類の審査に多くの職員が必要になるなどの問題があった。

そこで、全国で6千万人が利用しているLINEにより申請できるようにしたものである。区民からすると普段から使い慣れているLINEから申請できる、書類の印刷や記入の必要がなくLINE上で完結できる、自分に都合のよいタイミングで申請できるなどのメリットがあり、区職員からするとデータベースの入

力が省略できる、審査工程の時間短縮につながるなど大きなメリットがあるようである。

マイナンバーカード取得が必須になるが、文京区は70%超の普及率であるとのことである。外国人が多い地域であるのでLINE申請は英語版、中国語版のほかベトナム語版、ネパール語版などもあるそうである。

セキュリティーやLINEの持つ悪印象などの問題はあるだろうが、大きなメリットを考えれば本市においても一考の価値はあろうかと考える。

自由民主党 礎・和・絆 視察所見

議員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視 察 日：令和6年7月10日（水）
- ◆視 察 先：武蔵の森総合スポーツプラザ
- ◆調査項目：武蔵の森総合スポーツプラザについて

・武蔵の森総合スポーツプラザの概要

平成29年3月竣工。総工費351億円。敷地面積、約33,500㎡。鉄骨鉄筋コンクリート造。建築面積、約27,200㎡。メインアリーナ棟、サブアリーナ・プール棟からなる。メインアリーナの最大収容人数は10,000人。

・武蔵の森総合スポーツプラザの設置に至った経緯

平成21年4月「武蔵の森総合スポーツ施設基本構想」公表。構想期間は1～2年。平成22年8月「武蔵の森総合スポーツ施設基本計画」策定。平成25年着工。平成29年竣工。武蔵の森総合スポーツプラザは、味の素スタジアムと合わせて多摩の一大スポーツ拠点进行形成し、競技大会や地域スポーツの拠点として多摩のスポーツ振興に貢献すること、大規模イベント等の会場として、地域の賑わいに貢献することを目的としている。

・現在の年間ベースにおける利活用状況

令和5年度における使用状況は、専用使用において、メインアリーナ86%、サブアリーナ96%の稼働率であり、その他施設を含めた使用人数の合計は60万人である。また、個人使用における使用人数の合計は17.2万人である。その他、指定管理者の自主事業として、各種事業を企画立案し、実施している。

・施設利用促進のための広報・周知活動の有無

武蔵の森総合スポーツプラザ・味の素スタジアム・東京都パラスポーツトレーニングセンターの隣接する3施設が一体となり、年4回、紙媒体やSNSを活用し、広報活動を行っている。

・施設の管理及び運営

武蔵の森総合スポーツプラザは指定管理者により運営されている。指定管理者は、東京スタジアムグループ。東京スタジアムグループは、代表団体・東京スタジアムと京王設備サービス、シミズオクト、東京ビジネスサービス、東京ドームスポーツからなり、それぞれ、専門分野の業務を担っている。

本市においては、新八代駅周辺グランドデザインが策定され、基本計画に着手している段階である。グランドデザイン内では、大規模集客施設について盛り込まれており、建設するとなれば、その規模に対する議論は重要となってくる。今回は最大収容人数10,000人規模の施設を視察させていただいた。今後も見識を深めていきたいと考える。

自由民主党 礎・和・絆 視察所見

議員名【 橋本 貴喜 】

◆視 察 日：令和6年7月11日（木）

◆視 察 先：東京都荒川区

◆調査項目：ゆいの森あらかわ及び読書を愛するまち・あらかわの推進について

・ゆいの森あらかわ及び読書を愛するまち・あらかわの推進の概要

「読書を愛するまち・あらかわ」宣言が行われ、その宣言の理念をより一層深めるとともに、あるゆる世代が生涯にわたり豊かな心を育む読書のまちづくりを推進していくため、「荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例」が制定された。

・ゆいの森あらかわ及び読書を愛するまち・あらかわの取組及び運営状況

中央図書館としての機能を持つ。えほん館は子供の遊び場と連結している。また、ゆいの森ホールやゆいの森こどもひろば、吉村昭記念文学館がある。災害時は、乳幼児・妊産婦を中心とした避難所として防災拠点になっている。図書館内は会話が出来ることや飲食可能スペースがあることで、日頃から多くの人で賑わっている。

・ゆいの森あらかわ及び読書を愛するまち・あらかわの成果・効果

子供達が楽しめる図書の配置や、実際に楽しみながら学べるような仕組みが施されており、子供達の学力の向上につながっているとのことである。

・ゆいの森あらかわの利用促進のための広報・周知活動の有無

ホームページをメインにイベント等の告知を行っている。

・ゆいの森あらかわ及び読書を愛するまち・あらかわの今後の課題や問題点

全国的に見ても、ゆいの森あらかわのような図書館が増えてきているように感じる。カフェの併設や会話可能といった、これまでの図書館の概念にとらわれない施設となっている。ゆいの森あらかわを訪れている区民の方は、それぞれ生き生きと過ごされているようだった。本市における今後の図書館のあり方を考える機会であった。

令和7年3月31日

自由民主党 絆

代表 増田 一喜 様

八代市議会自由民主党 絆
管外行政視察復命書

視 察 期 日 : R7.2.18 (火) ~ R7.2.20 (木)

視 察 先 : 【東京都】 経済産業省

日比谷国際ビル

参 加 者 : 議 員 橋本 貴喜



自由民主党 礎・和・絆 視察所見

議員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視 察 日：令和7年2月19日（水）
- ◆視 察 先：日比谷国際ビル コンファレンススクエア8E
- ◆調査項目：第265回コミュニケーション・プラザについて

・コミュニケーション・プラザ

コミュニケーション・プラザは住宅産業研修財団が企画・運営するシンポジウムである。テーマは各省庁のアドバイスを得て、その時々々の住宅政策や環境問題などタイムリーなものを取り上げ、昭和54年（1979年）以来、265回を数える。

・第265回コミュニケーション・プラザ

「畳のこれからを考える」経済産業省 製造産業局 生活製品課 住宅産業室
畳は日本の伝統的な床材として、温かみのある感触や部屋の雰囲気や和らげる効果などにより人々に親しまれてきましたが、住まいや生活様式の変化などから和室が減少し、畳市場や畳製造業の事業所数も大きく減少している。このような中で、和の住まいや畳の価値の再認識を促す取組、畳の新たな展開を模索する動きも現れている。今回のコミュニケーション・プラザでは、畳の製造、住まいの設計、畳の採用などに関わる関係者からお話を伺い、畳の市場が縮小している背景や要因について分析を行うとともに、制度的な課題や需要の喚起のために関係者の取組むべき事項を探りながら、畳のこれからを考える。

・畳産業の現状と課題

講師：全日本畳事業協同組合 理事長 石川恒夫
講師：株式会社クラナミ 代表取締役社長 牛尾洋司
畳業界が現在置かれている状況を数字や実情を踏まえて説明された。5万店あった畳店数も現在は5千店程度となっている。畳店としての取組が不足している点や、生産者～流通～畳店までを一つとした業界の受け皿が必要という提案がなされた。

・国産畳表の現状と課題

講師：八代市役所 農業振興課 農産係長 福嶋学
講師：い草生産者 中山貴之
八代市からは、市の概要、い草栽培と畳表加工の現状、行政としてい草産業存続に向けた課題と取組を説明された。い草生産者として存続するために行っている取組、い草生産にかける想いが伝えられ、会場内の空気が一変した。

・畳のBL部品化について

講師：一般社団法人ベターリビング 理事長 眞鍋純

優良住宅部品（B L 部品）認定制度についての説明があり、衝撃緩和型畳のB L 部品化に関する経緯を説明された。今後の展望として衝撃緩和型畳以外の一般の畳についてB L 認定の可能性を検討していくと述べられた。

・畳の普及に向けた取組～これからの畳の在り方～

講師：遊民建築研究所 黒田幸弘

畳の需要を増やすためには、畳を建築士・学生・住まい手に知ってもらう必要がある。床材としての畳とモダンデザインとして、現代建築に合わせた畳の仕様について説明がなされた。今後も畳を知ってもらう活動を広げるよう精力的に取り組んでいく旨を述べられた。

今回のコミュニケーション・プラザに参加させてもらい、改めて、畳産業に対する認識を整理できた。経済産業省の主催で開催されたことは、今後について非常に大きな意味を持つと考えられる。日本の伝統・文化を守っていくためにも、い産業の存続は必要不可欠である。今後もい産業のためにしっかりと取り組んでいく。